

BIKER-MON

5 2016 May
No.33 季刊

こだわりのバイカーマガジン バイカーモン

ハーレーダビッドソン
古き時代の奥深き資産



RARE ITEM COLLECTION

レアアイテムコレクション

SHOP ORIGINAL PARTS CATALOG

SHOP発! 現行パーツカタログ

VINTAGE HELMET MUSEUM / NEW HELMET CATALOG

時を超えて愛されるヘルメット / 最新ヘルメットカタログ

ビンテージパーツ大特集



控えめだけどそうでもない…… “ツインクル” 富岡号。 2000 FLSTC



1 トライジャ岡本氏曰く、ナックル変身パーツのロッカーカバーとカムカバーはおそらくCC製。2 トライジャ製のストーンシート。3 ハンドルはラインダーバー。4 LEDテールライトを内蔵したリアフェンダー。5 フロントはもちろん74スプリンガー。ちなみにCVキャブは「Forty-Five Degree」でフルチューニング。

大阪は柏原市にある老舗カスタムショップ「トライジャ」。話はここからスタートする。10年ほど前に製作された車輛が前オーナーを経て中古車として戻ってきた。そのバイクに目を輝かせたのが富岡さんである。その頃、最終EVOから乗り換えを考えていた氏。「あっ、ナックルだ」思わずそんな思いが駆け巡った。「映画の影響がなぁ。まだ中学生くらいだった時に、二輪乗るんやったらハーレーだろうって。白黒やっただし、なんの映画かは全然覚えてないけど、そんな時に観たのがナックルやと思うんです」ナックルへの憧れは今もまだ心に秘めている。

ナックル風ツインカムのチョッパー。心臓部はそのままに、ハンドルまわりをまずは変更。前のEVO時代から使っていたツールBOXもETC入れとして流用。違和感はまったくなかった。「ホントにドンビシャやった。本物のナックルに乗りたいうのはずっとあったし、正味チョッパーへの憧れもあるけど、現実的にはないな〜とも思うし。でも、これいいじゃんって」

富岡さんは思う。もちろんゆくゆくは乗りたい。レストアやリビルドを考えると……だけども今は“形”だけでいいやろと。

OWNER 富岡俊雄

